議事要旨

(1) 飛鳥国営公園に求められる役割・課題について

(周遊ルート、交通アクセス等について)

○キトラ古墳周辺地区(仮称)の区域拡大に伴って、これまでの明日香村への主たる玄関口である飛鳥駅に加え、壷坂山駅、桜井駅なども含めた周遊ルートの再検討が求められる。また、自転車ごと乗せるシャトルバスの運行など新しい交通システムの実現に向けた検討も必要。

○明日香村整備計画で検討されている周遊道路網の拡充や、今秋、近畿地建の提唱で行われるパーク＆ライドの実験結果等を考慮して、新しい周遊コースの拠点としてキトラ古墳周辺地区が位置付けられることが望ましい。

○高松塚古墳からキトラ古墳への新しい周遊ルートとして於美阿志神社を経由する周遊歩道の整備が必要。

○現行法の下では、飛鳥では青空駐車場を造成することは限界があることから、国営公園における古都の景観に配慮した駐車場整備は意義深い。

(対象とする利用者について)

○飛鳥歴史公園の利用者は中高年の利用が中心であり、これに小中学生の遠足や修学旅行が加わる。これまで利用者の実態を踏まえ、さらに今後の利用の拡大に向けて、利用者像のきめ細かな設定を行うことが必要。

○徒歩による周遊、団体バスなどによる広域周遊など利用者の来訪手段別にみた施設整備等の検討が必要。

(2) キトラ古墳周辺地区のあり方について

(キトラ古墳の保全範囲について)

○史跡に指定されている区域の東西と北側の斜面が非常に重要な意味を持つと考えられるので、現状の地形の改変は好ましくない。

○特に谷間の遺跡については全く未知であるため、工事の際に調査が必要。

(キトラ古墳本体の見せ方について)

○キトラ古墳の展示方法については、高松塚古墳での経験を踏まえ新しい視点から、古墳本体の現地での見せ方や壁画の保存展示手法に関する検討が必要。

○キトラ古墳では壁画の本物を見せることも含め現在明日香村で検討中。

○古墳の背景には明るい森林風景が必要と考える。築造当初の姿を復元した古墳が飛鳥にも一つあってよいのではないか。

(体験的歴史学習のあり方について)

○飛鳥の来訪者が楽しみながら歴史を学習できるよう従来の陳列的展示手法だけでなく新たな技術を活用した展示手法や学習の場の提供の検討が必要。

○若い世代に対して、飛鳥は国の発祥の地だということを明確に伝える内容が望ましい。

○古代の科学技術を紹介するような展示も児童・生徒の興味を引くものと考えられる。

○キトラ古墳の特徴である星座、星をテーマとして取り上げ、飛鳥歴史公園祝戸地区の研修宿泊所の活用もあわせて検討することも考えられる。

(景観保全について)

○周遊歩道からの葛城・金剛の山並み景観は秀逸。景観の見せ場をきめこまかく検討して公園整備を行うことが望ましい。

○都市計画道路で公園区域全体が二分されるため視覚的な一体化の工夫が必要。

○環境考古学などの知見を活用して飛鳥時代の植生などを推測し、それをもとにした景観復元が考えられる。

○計画地の細やかな尾根、谷から構成される田園環境は非常に重要な要素であるので、保全を基調に大きな改変をせずに整備することが望ましい。
○キトラ古墳の周辺には、於美阿志神社や檜前寺が立地する。樹高の高い立派な樹木は古代の景観を彷彿させるものがあるので景観的な配慮が必要。

(3)キトラ古墳周辺地区(仮称)の区域設定の考え方について
○区域設定の考え方についてはほぼ妥当。
○植生の保存の意味から、古墳裏側の山裾まで区域に取り込んで考えることが必要。
○古墳建設時や埋葬後の当時の人の行動がわかれば、古墳周辺地域をどの程度保存すべきかの判断材料となるのではないか。
○前面の谷の部分は史跡指定範囲に入っていないが、今後の調査で古墳を理解する上で必要とされる部分が伸びる可能性はあるため、留意が必要。
○遺跡地図ではキトラ古墳周辺に埋蔵遺跡は確認されていないが、区域決定の一つの要素となるので慎重な検討が必要。

6. 第2回検討委員会について
　11月20日(月)午後、京都市内にて開催